

## 平成 22 年度学校図書館との連携による学習支援プロジェクト（速報版）

平成 23 年 3 月 23 日

国立国会図書館国際子ども図書館

平成 23 年 2 月 26 日（土）国際子ども図書館において、学校図書館支援事業である「学校図書館との連携による学習支援プロジェクト」の平成 22 年度フィードバックミーティングを開催しました。プロジェクトメンバーをはじめとして、学校図書館関係者など計 16 名の参加がありました。

プロジェクト初年度である平成 22 年度は、研究者、学校教員、学校図書館、公共図書館（国際子ども図書館）が協力して、東京学芸大学附属竹早中学校で中学 1 年社会科地理の「日本の諸地域調べ」の授業に使うブックリストを作成しました。

今年度の活動から、教員と図書館では選書のポイントも異なることがわかりました。この速報版では、ミーティングの内容を、異なる立場からの関わり方、気づいた点を中心に報告します。

### 1. プロジェクトの概要（橋詰企画推進係長）

国際子ども図書館児童サービス課職員から、プロジェクトの概要や作業手順について説明しました。

#### 【ブックリスト作成手順の概要】

ブックリストや詳しい資料は  
5月に掲載します

- ① 教員への授業構想インタビュー（平成 22 年 12 月）
- ② 国際子ども図書館による調べ学習用ブックリストの選書用キーワード案提示 → 教員による修正
- ③ 確定したキーワードをもとに国際子ども図書館が選書
- ④ ③からプロジェクト主査、教員、学校司書による選書 → プロジェクトメンバー全員による確認のもと、資料（ブックリスト）の確定（平成 23 年 1 月）
- ⑤ 学校司書による資料集め → 授業で使う資料（ブックリスト）を教員と学校司書が確認
- ⑥ 教員による授業実践 → 授業に学校司書が参加。プロジェクト主査と国際子ども図書館職員が見学（平成 23 年 2 月）
- ⑦ 評価 ← フィードバックミーティング

### 2. 学校での授業の実施方法～図書館員のための予備知識～

#### ■ 鎌田和宏先生（帝京大学文学部准教授：プロジェクト主査）

中学社会科の学習目標は、最終的には国家・社会の形成者としての「市民」を育てることです。授業は学習指導要領と教科書、指導書をもとに作りますが、それだけではなく、そこに教員の意図（当該単元で生徒に何を学ばせたいかなど）や経験、生徒の状況などが大きく関係します。教科書などの情報は図書館でも共有できますが、教員の意図などは頭の中にあるものなので、適切な授業支援のためには、教員へのインタビューが必要です。



鎌田和宏先生

### 3. プロジェクトを振り返って

#### (1) 教員の立場から

■荒井正剛先生（東京学芸大学附属竹早中学校教諭）

授業「日本の諸地域調べ」の学習目的は地域の特殊性を知り、共通点にも目を向けさせること、また、諸地域と東京との関係性を考え、自身の生活を見直し、今の社会のあり方を考えさせることです。

国際子ども図書館から提示されたキーワードリストを見て、教師の立場・発想と異なるキーワードに刺激を受けました。授業で使うブックリストには結びつかなかったキーワードも、授業の導入などでは使えそうです。



荒井正剛先生

#### (2) 学校司書の立場から

■岡島玲子先生（東京学芸大学附属竹早小・中学校学校司書）

小・中学校の図書室を一人で担当しています。小学校の図書の授業を担当しているため、中学校での授業参加のための時間調整に苦労しました。授業「日本の諸地域調べ」では、複数の情報源を使うこと、参考文献を書くことなどを指導しました。

ブックリスト作成にあたり、自校で所蔵していない本については、公共図書館や書店で内容を確認しました。良い本だったのに入手できずブックリストに入れることをあきらめた本もありました。授業では同じ本を複数そろえることも必要で、他の附属校からも借りて集めました。



岡島玲子先生

#### (3) 公共図書館員の立場から

■橋詰秋子企画推進係長（国際子ども図書館児童サービス課）

以前、私は、「調べ」と聞いて、目次や索引の使い方など情報の調べ方を習得させる「自由研究的調べ学習」だけを想定していました。しかし、このプロジェクトを通して、今回の授業の中で荒井先生が意図されている「調べ」は、「自由研究的調べ学習」ではなく、授業の「一段階での調べ作業」であり、そして、その主目的は単元の学習内容を効果的に習得させることにあると気付きました。今回の授業の「一段階での調べ作業」のために必要

な本は、生徒が発表する際のパーツや材料でした。適切なブックリストの作成のために、教員へのインタビューが重要であることがわかりました。また実際の授業を見学して、授業現場で本の使い方など学校図書館員の直接支援がとても有効であることも実感しました。



橋詰秋子係長

### 4. ブックリストの評価

授業と選書という二つの視点で鎌田先生から荒井・岡島両先生に公開インタビューを行いました。ブックリストに採用された本とブックリストには入らなかった本を展示し、議論のなかでそれぞれ紹介しました。会場からも積極的な発言がありました。

このミーティングの資料を含む平成 22 年度のプロジェクトの成果報告を、5月ごろにホームページで公開する予定です。